

認知症と向き合う「幸齢社会」実現会議

「認知症の親をもつ家族は、夜ゆっくり眠ることはできないのですか？」
～介護家族の言葉から始めた小規模多機能型居宅介護・ひつじ雲～



特定非営利活動法人 楽

小規模多機能型居宅介護 ひつじ雲 (川崎市幸区)

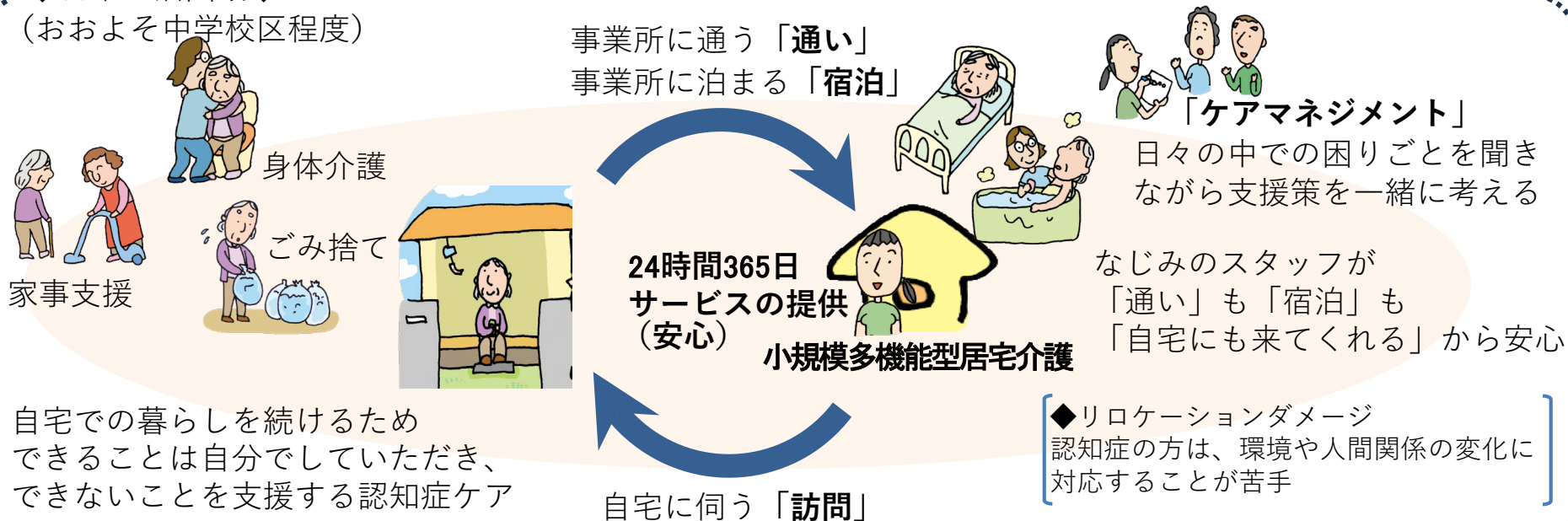
理事長 柴田 範子

『小規模多機能型居宅介護』とは

- 一つの事業所に、通って、泊まって、自宅にも来てくれて、相談にもものってくれる、オール・イン・ワンの介護保険サービス
- 2006年（平成18年）に制度創設（介護保険法改正）

◆日常生活圏域◆

（おおよそ中学校区程度）



資料提供：全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会

- 令和5年8月現在、全国で5,522か所
- 利用者は、全国で約11万人。

そのうちの5割以上が独居や老夫婦などの高齢者のみ世帯であり、9割の方が認知症。

《認知症高齢者の在宅での暮らしを丸々ご支援できます》

特定非営利活動法人 楽「ひつじ雲」の取り組み

約20年前「認知症の親をもつ家族は、夜ゆっくり眠ることはできないのですか?」と問いかけられた。その希望に応えたくて、2006年(平成18年)に小規模多機能型居宅介護ひつじ雲を川崎市幸区幸町に開設。

◆ ひつじ雲の概要

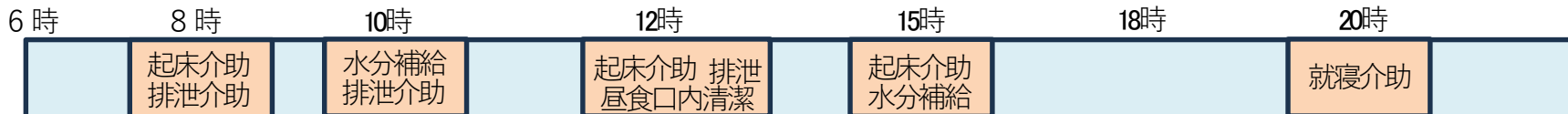
	登録人数	通い	宿泊	訪問
定員	27名	15名	4名	—
現利用者数	24名	7.7名 (1日あたり)	0.5名 (1日あたり)	29.9回 (1日あたり)



ひつじ雲 (川崎市幸区) JR川崎駅から徒歩約5分

◆ある方 (女性87歳、要介護4、働く娘と2人暮らし) の利用の様子

- 高齢による腰の骨折で、突然ベッドから起き上がれなくなり、介護経験のない娘は右往左往。近隣の方が「ひつじ雲」へ連絡をくれる。娘の仕事中は「通い」と「訪問」を利用し仕事をし続けることができるよう支援しつつ、自宅で娘が介護できるよう、ベッドからの起き上がりや排せつ介助の仕方を練習し、在宅生活を継続。
- 週3日の通いと、1日5回の訪問／1回30分程度。



← 「通い」を使う日も(週3回) →

特定非営利活動法人 楽「ひつじ雲」(1)



車いすでも入りやすい玄関



JR川崎駅から徒歩約5分。3階建ての建物。1階はコンビニエンスストアだったものを改修し、ひつじ雲に。



宿泊室 (和室)



皆さんが集うフロア



「広めの一軒家」のような家庭的な雰囲気



浴室

最重度の方までの入浴が可能

特定非営利活動法人 楽「ひつじ雲」(2)



近所の方とのご挨拶が日常



近所の公園まで散歩



「銭湯」での入浴



近所の一人暮らしの方等との集い
(知人へ安否確認も兼ねてプレゼント)



餅つき



利用者も地域の清掃活動

ご自宅で暮らし続けられるように、利用者さんの暮らし方にひつじ雲のサービスを合わせる努力をしています。ご自分がこれまで続けてきたこと、してみたいことに挑戦する応援をさせていただきます。

ひつじ雲は開設当初から地域の町内会、民生委員、老人会や銭湯の協力を得て地域活動を展開してきました。今年7月からは2か所目のcaféひこうき雲を開所して、お年寄りが毎週火曜日通って、賑やかに過ごしています。



職員も地域のお祭りに担ぎ手として参加



利用者、家族、近隣住民と協働のバザー

小規模多機能型居宅介護のこれから

- 今後の認知症高齢者・独居世帯の増加を踏まえると、特に人口が密集する都市部においては、
 - ・ 24時間365日の切れ目ないサービスをパッケージで提供し、
 - ・ 家族支援や地域のご近所とのかかわり支援も行う「小規模多機能型居宅介護」の活用が切り札となると考えます。
 - ・ なお、医療が必要な方向けには「看護小規模多機能型居宅介護」（全国852か所）という類型もあります。

○課題と提案

1. 名前を含め、一般にあまり知られていない。啓発・PRを進めて欲しい。
 - ・ 『通所介護 ⇒ デイサービス』のような通称もない。
 - ・ ケアマネジャーの手を離れることから、ケアマネジャーからのサービス利用のすすめも控え目。
2. 自治体が、土地を用意するなどして、小規模多機能型居宅介護の事業所を公募で選び、計画的に設置する方策を推進して欲しい（特に都市部）。
 - ・ 例えば、神奈川県川崎市、東京都稲城市、石川県加賀市などに計画的設置の例がある。